

- 北海道総合開発計画に掲げる「世界水準の観光地」の形成に向けて、世界水準の観光地のイメージや多様な主体による連携・協働の重要性の理解促進を図るため、東洋大学 矢ヶ崎教授や地域の観光分野で御活躍されている方々をお招きし、セミナーを開催。
- 平成30年度は、北海道の強みである「食」と「観光」を担う「生産空間」を支えるため、北海道型地域構造の保持・形成に向けた検討が進められている名寄周辺モデル地域における観光分野の取組促進を図る観点から、名寄市において開催。

- 日時 平成30年11月9日(金) 15:30～18:30
- 場所 駅前交流プラザ「よろーな」1階 大会議室
- 参加者 自治体、観光協会、民間企業等 計65名

基調講演概要

東洋大学国際観光学部国際観光学科教授 矢ヶ崎 紀子 氏

・訪日外国人旅行者数は、今年は3,000万人を超えると予想される。昨年は4.4兆円の消費額、外貨を得ており、インバウンドは外国に持ち出すことができない資源を使って外貨を稼ぐ輸出産業。

・どういった観光客を狙うのか。観光地は、新規顧客を獲得できる地域とリピーターを狙う地域の2種類。新規顧客の獲得はコストがかかり、道北地域ではリピーターの獲得を目指すことが重要な戦略。

・観光客が多く訪れても、自動的に地域は活性化しない。観光消費額の増加と需要平準化、得たお金を域内循環させるための企業間連携が必要であり、最終的には地域産業のブランド強化、つまり物の移出・輸出につなげていくことが重要。

・広域連携は、協働作業の現場をつくり、成功体験を得ることが必要。その際には新規需要創造、つまりインバウンドの取組で成功体験を得ることが重要。



地域の取組事例発表概要

NPO法人なよろ観光まちづくり協会事務局長 畑中 覚是 氏

・名寄地域は観光地と呼ばれたことはないが、手つかずの原始的な自然を活用しつつ、二次交通の課題解決のため、スイス・モビリティの考え方により、「きた北海道エコ・モビリティ」の活動を展開。

・名寄だけでは何泊も泊まっていたく宿泊容量もコンテンツも足りない。スノーピクニック体験等の2,3時間のツアーを数多く実施し、これらを組み合わせることで、地域の宿泊につながればと考えている。



株式会社北海道宝島旅行社代表取締役社長 鈴木 宏一郎 氏

・普通の旅行会社は人を外に出す仕事だが、弊社は北海道に人を呼び込み、外貨を稼ぐ旅行会社。

・外貨を観光で稼ぐためには、地域にあるものを組み合わせる新たな価値をつくる。地域の自然・農山漁村風景・暮らしを観光資源として、わざわざ来ていただくための魅力創造が必要。

・地域の日頃の暮らしを有料でお裾分けしてあげる仕組みづくりが重要であり、そのためにはコーディネーターが必要で、それを担うのが観光協会であり地域の役割。



意見交換概要

○観光地域づくりにおける自治体の役割について

・基本は民間に任せ、地域の課題解決のために観光に取り組むビジョンを描くのが自治体の役割。

○観光の組織づくりをする際に、継続性を持たせるための注意点について

・人が重要で、地域に応援される人に任せること。次に、ガバナンスで、その人が取り組みやすい仕組みづくり。3つ目は財源。行政は観光で地域づくりすると決めたなら、仕組みを維持する財源を確保すべき。

○「世界水準の観光地」について

・「世界水準の観光地」は、これをきっかけに地域を見直し、何をどうするのか考えるキーワード。北海道には「アジアの宝」と呼ばれる自然がある。これだけの資源があるのだから、志を高く、世界水準というものを地域で考えていくことが重要。

